

## Distribution and some biological aspects of deepsea chondrichthyans in Sagami Bay, central Japan

谷内 透 (日本大学生物資源科学部)

Toru Taniuchi (College of Bioresource Sciences, Nihon university)

相模湾は、広義には伊豆半島石廊崎から大島を含み房総半島野島崎に囲まれる、東京湾を除く湾入域である。相模湾の特徴は、湾口幅が広く特に真鶴から小田原にかけての西岸域は、水深 200m 付近から急に落ち込み、二宮から城ヶ島にかけての中東岸域は、200m までは比較的なだらかであるが、その後はやはり急に深く落ち込み、全体的に急峻である、このような複雑な構造を反映して、相模湾は従来から軟骨魚類相がきわめて豊富な海域として世界的に知られている。しかし、近年相模湾産軟骨魚類に関する調査・研究はほとんど行われていない。1つには、軟骨魚類が漁獲対象となっていないこと、1つには底曳網漁業がないためにほとんど漁獲されず、生物学的情報が欠如しているからである。そこで、2000-02 年度に神奈川県総合水産研究所所属の「江の島丸」によるギス調査及びアンコウ調査で得られた標本および 2002-4 年には漁船と遊漁船から軟骨魚類標本を採集し、相模湾産の深海性軟骨魚類相の調査を行った。

現在までの所、採集された種類は、ギンザメ科 2 種類 (*Chimaera phantasma*, *Hydrolagus mitsukurii*), トラザメ科 3 種 (*Galeus nipponensis*, *Apristrus platyrhynchus*, *Cephaloscyllium umbratile*), カグラザメ科 1 種 (*Hepttranchias perlo*), カラスザメ科 3 種 (*Etmopterus* sp., *E. lucifer*), *E. molleri*), アイザメ科 4 種 (*Centrophorus atromarginatus*, *C. acus*, *C. squamosus*, *Deania calcea*), オンデンザメ科 2 種 (*Centroscymnus owstonii*, *Zameus squamulosus*), ツノザメ科 4 種類 (*Squalus mitsukurii*, *S. japonicus*, *S. blainville*, *S. brevirostris*), ヨロイザメ科 1 種 (*Dalatias licha*), カスザメ科 1 種 (*Squatina neblosa*) であった。この他漁船や遊漁船からは、*Mustelus manazo* と *Trakis scyllium* の標本の提供を受けた。

江の島丸の混獲だけに限れば、3 年間の捕獲総数 442 尾のうち、最も多獲されたのはフトツノザメで、全体の 69% を占めた。次に多かったのがギンザメとニホンヤモリザメで、それぞれ全体の 6.1% であった。4 番目に多かったのがフジクジラで、3.8% であり、他の軟骨魚類は 5% 以下であった。駿河湾産の深海性軟骨魚類相と比べて捕獲種類数がかかなり少ない理由として、軟骨魚類相が貧弱というよりは、相模湾では底曳網漁業が存在しないためと考えられる。数の多かったフトツノザメの捕獲水深は 150-550m で、多獲水深は 300-400m であった。水深別の CPUE には季節的な変化がみられ、春期と夏期の多獲水深は秋季よりは浅く、垂直移動をしている可能性が示唆された。冬季には相模湾の沿岸よりの海域からは捕獲がないのに対し、東京湾口に位置する沖の瀬では遊漁船により捕獲された。雌雄や成熟段階でも漁獲水域や漁獲水深が異なる傾向が見られた。